

茶病虫害防除情報

令和5年2月20日

【第10号】

鹿児島県経済連・肥料農薬課

主要病虫害の生態と防除シリーズ (8)

チャノホソガ (サンカクハマキ)

発生と防除のポイント

製茶品質に影響の大きい重要害虫である。蛹で越冬し、年間の発生回数は6~8回である。概ね新芽生育と合せ発生するが、成虫発生期と新芽の生育期一致する地域、品種園で被害が大きくなる。二・三番茶期の発生は多く、被害も大きい。三角巻葉内に虫糞を充満させ、製茶品質(水赤)を低下させる。新芽の萌芽~2葉期頃に葉裏に産卵し、幼虫は潜葉期、葉縁巻葉期を経て摘採期頃に三角巻葉期となる。

防除は萌芽~1葉期の卵~幼虫潜葉期頃に薬剤散布する。2・3葉期以降の産卵では被害は少ないので、防除の必要はない。

発生生態

害虫の種類	昆虫・鱗翅目
発生の状況	普遍的に発生 被害大
形態と診断	寄生・加害特徴：新葉を三角巻葉加害 茶園の全面に発生 新葉裏面の微小水滴状の卵粒、表皮下潜葉・葉縁巻葉幼虫で確認 成虫：翅の中央に金色の三角形斑紋があり、約4mmで細長い 幼虫：孵化直後の潜葉期幼虫は葉裏表皮下を食害、約0.6mm 葉縁を巻く葉縁期幼虫を経て、三角巻葉幼虫へ発育 三角巻葉幼虫は8~10mmで巻葉内に虫糞を充満 蛹：葉裏に繭を作り、約6mm 卵：葉裏に1粒ずつ産卵 約0.5mm微小水滴状(微小な水滴が付いたように見える)1葉当たり1~6粒 総産卵数20粒

被害の様子	巻葉内の虫糞が製茶品質(特に水色が赤くなる)を著しく低下させる。 巻葉30葉/m ² 以下では影響がなく、100葉/m ² 以上で品質が低下(水赤)。 (三角巻葉量が摘採生葉量の5%未満までは影響はない、5%を越すと、水色が赤みをおび、25%を越すと飲用できない状態になる。 巻葉の褐変落葉で茶芽生育にも幾分影響し、減収被害もある。 チャノホソガ、ミマ、カンザリタガエの好適な生息場所にもなり、これらの発生加害を助長する。
-------	---

生態・生活史	越冬：蛹(葉裏) 3月~4月に第1回成虫羽化 4月中旬発蛾最盛期 卵期間： 3~7日 潜葉幼虫(1・2齢)期間：7~10日 新葉表皮下潜行で吸液型
--------	---

葉緑幼虫(3齢)期間：2～4日 新葉組織食害型
三角巻葉幼虫(4・5齢)期間：5～10日 巻葉食害型 巻葉内に糞充滿
蛹期間：10～16日 産卵～羽化期間：32～49日

発生消長 年間発生回数は5～7回
2月下旬～4月に越冬世代成虫が発生し、幼虫被害は4月頃・一番茶期から
ほぼ1ヵ月おきに発生
第1世代幼虫：4月下～5月上旬(一番茶芽) 成虫：5中～6月上旬
第2世代幼虫：5月下～6月中旬(二番茶芽) 成虫：6月下～7月上旬
第3世代幼虫：6月下～7月中旬(三番茶芽) 成虫：7月下～8月上旬
第4世代幼虫：7月下～8月中旬(秋芽) 成虫：8月下～9月上旬
第5世代幼虫：8月下～9月中旬(秋芽) 成虫：9月下～10月上旬
第6世代幼虫：10月上～中旬 成虫：10月中～11月上旬
第7世代幼虫：11月中～下旬 成虫：翌年3月下～4月上旬
(第2・3世代の二・三茶への発生被害が大きく、第4・5世代の秋芽に対
する発生が多い)

発生条件 成虫発生期と新芽生育期が一致すると(地域・品種)発生が多くなる。
幼木園・中切り更新園などは産卵に適する新芽の生育期間が長いので
発生が多くなる。
品種が混在する地域、早生品種園、早場産地で多い傾向がある。
気象との関係は、晩秋期～初冬期の高温は最終世代虫の羽化死滅で、また
春先の寒暖差が大きいと越冬密度が低下し、発生が減少する傾向がある。

天敵 影響 中 ハナガミドリヒメコバチ キイロコバチ ホナガコバチ ヒメバチ 天敵ウリス
(秋季は天敵・寄生蜂の寄生率が高くなる)

防除方法

防除のポイント

- ①1葉期頃に新葉への産卵・潜葉幼虫の状況を確認し防除を判断する。
- ②若齢幼虫の潜葉期・1葉期が防除適期、必ず三角巻葉前に防除する。
- ③摘採期が近まり巻葉がみられたら、早めに摘採し、被害を回避する。
- ④防除薬剤のIGR剤は卵期～表皮下潜行幼虫の初期に、その他の薬剤は表皮下潜行幼虫期(潜葉期)に散布する。
- ⑤摘採10日前(2～3葉期)で、卵期の状態であれば防除の必要はない。
- ⑥二・三番茶期は、収穫する新芽の時期の防除のため使用基準の摘採前日数1～7日前薬剤を選んで防除する。
- ⑦2回整枝技術により加害する遅れ芽を除去し、発生を軽減する。
- ⑧秋芽生育期の防除も徹底し、翌年への発生源を少なくする。
- ⑨IGR剤、ジアミド系剤は地域により薬剤抵抗性が発現しているので留意し、地区栽培暦採用薬剤で防除する。

具体的防除方法

薬剤防除方法

防除時期	農薬名	希釈倍数(倍)	使用基準	備考 注意事項
二・三番茶期 萌芽～1葉期	【IGR 脱皮阻害剤】			<ul style="list-style-type: none"> ・葉裏へ産卵、潜葉幼虫を確認して防除すると効果的である。 ・IGR 剤は卵の時期に散布する。また地域により薬剤抵抗性が発生しているので留意する。 ・ジミアト[®]系剤は地域により薬剤抵抗性が発生しているので留意する。 ・ネオコチノイト[®]系剤はウカ、スリップスとの同時防除に適用し、薬剤抵抗性発現を考慮し、1回/年使用とする。本系剤は卵期散布が良い。 ・BT 剤は葉縁巻葉期の散布で、虫糞排出抑制など被害軽減効果がある。 ・BT 剤は JAS 有機栽培、輸出栽培に使用できる。 ・JAS 有機栽培に使用可 〃 〃
	カスケト [®] 乳剤	4000	7 日前 2 回	
	ノモルト乳剤	2000～4000	7 日前 1 回	
	【IGR 脱皮促進剤】			
	ファルコンフロアブル	4000～8000	7 日前 2 回	
	マトリックフロアブル	1000～2000	7 日前 2 回	
	【ジミアト[®]系剤】			
	エクシレル SE	2000	7 日前 1 回	
	サムコルフロアブル	2000～4000	3 日前 1 回	
	テッパ [®] ン液剤	1000～2000	3 日前 1 回	
	【ネオコチノイト[®]系剤】			
	スタークル顆粒水溶剤	2000	7 日前 2 回	
	アルパ [®] リン顆粒水溶剤	2000	7 日前 2 回	
	ダントツ水溶剤	2000～4000	7 日前 1 回	
	バリアート [®] 顆粒水和剤	2000～4000	7 日前 1 回	
	モスピ [®] ラン顆粒水溶剤	4000	7 日前 1 回	
	【BT 剤】			
	エスマルク DF	1000	7 日前 ー	
	サブ [®] リナフロアブル	1000	7 日前 ー	
	チュンアップ [®] 顆粒水和剤	2000	前日 ー	
レピ [®] クリーン DF	500～1000	前日 ー		
【その他の剤】				
アグリメック	1000	7 日前 1 回		
アフーム乳剤	1000～2000	7 日前 1 回		
アフームエクセラ顆粒水和剤	1000	7 日前 1 回		
ディアナ SC	2500～5000	前日 1 回		
スピ [®] ノエスフロアブル	2000～4000	7 日前 2 回		
除虫菊乳剤 3	1000	10 日前 3 回		
サンクリスタル乳剤	300～600	前日 ー		
秋芽生育期 (8 月上～9 月上旬)	同上及び			<ul style="list-style-type: none"> ・ウカ、スリップスなどと同時防除する場合は適用のある剤を選択する。
	【その他の剤】			
	グレーシア乳剤	2000	14 日前 1 回	
	ハチハチ乳剤	1000～1500	14 日前 1 回	

チャノホソガと被害



成虫

卵

潜葉幼虫

三角巻葉中の幼虫と虫糞

(卵から潜葉幼虫が防除適期)



葉縁巻葉 (中に幼虫)

(薬剤防除効果あり)

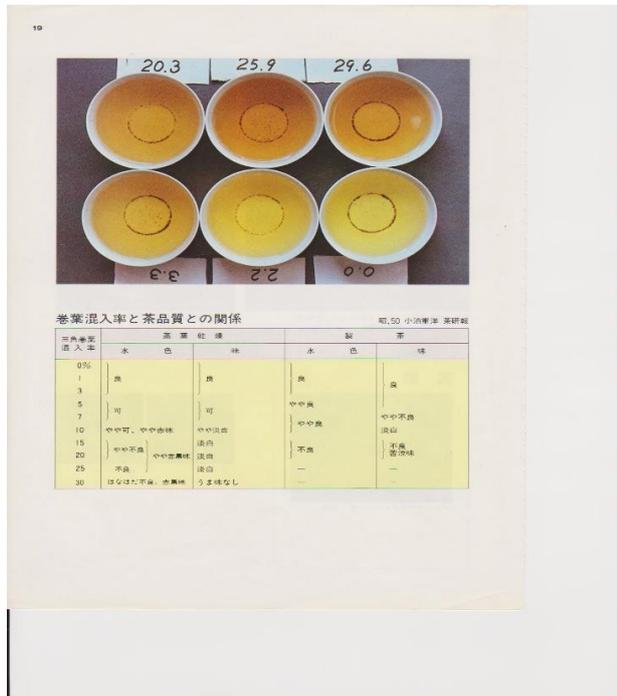
(BT 剤はこの時期に散布する)



三角巻葉

(中に虫糞を貯め、品質に影響する)

(この時期の防除効果はない)



(上段 20~30%)

収穫生葉への巻葉混入率が高くなると水色に影響する (下段左 3% 右 0%)